



善意をありがとう

〈奨学基金へ〉

順不同・敬称略



「野上正勝氏の古希を祝う会」チャリティコンパ
28,500円



(有)瑞穂農場 代表取締役 下山一郎
500,000円



型取り前に頭部を精査し
予定を変更

人面付土器
いずみ
修復中!
④

型はシリコンで取ります。いずみ“の顎や頬に塗られている、赤色



レプリカ作成のための
型取り開始!

胴部の接合と樹脂の充てんが完了した人面付土器“いずみ”。レプリカ作成の型取り前に、頭部を精査したところ、大変細かいヒビがそこかしこに見つかり、アクリル樹脂の注入と、それだけでは弱いところにはエポキシ樹脂の充てんを行いました。当初は、頭部内側の型取り後、胴部と接合して、一気に外面の型取りをする予定でしたが、補強はしても頭部のヒビを考慮して安全策を取り、頭部と胴部を分けて複製することにしました。この方法は、接合して型取りするより、完成までの手間が格段に多くかかってしまいます。しかし、“いずみ”を壊したり傷ついたりしては元も子もありません。資料の状態を見極めて、最善の方法を探りつつ作業は進行していきます。



写真2

▲シリコン塗布



写真1

▲錫箔で養生

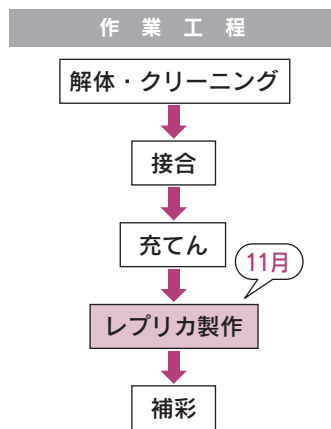


写真3

▲頭部の型

顔料の一つのベンガラがはがれたり、土器の表面が傷んだりしないよう錫箔で保護し(写真1)、その上からシリコンを塗ります(写真2)。口や目の回りに施された細かい文様部分も鮮明に型取りするために、空気が入らぬよう細心の注意を払います。シリコンの型は薄く軟らかいので、外面のシリコン型の外側は石膏で固め、内面の型の内側はエポキシ樹脂を積層して固め、しっかりとした型を作り上げます。

※この修復事業には(財)朝日新聞文化財団より助成を受けています



胴部外面の型取りも11月下旬には終了し、12月中旬には型にエポキシ樹脂を注入してレプリカの原形ができあがる予定です。

写真提供・取材協力…府中工房 堀江武史氏
歴史民俗資料館 ☎52-1450